

小學福井縣誌

生徒用

全



K120.27

80

高城與五郎編

生徒用

小學福井縣誌 全

福井市 二書房藏版

小學福井縣誌

緒言

一此の書は、小學兒童に、福井縣地理の大要を授け、兼ねて郷土史談の一斑をも知らしめんとて、實際教授の便利と、學力の程度とを考へて、編纂したるものなり。

一此書は、旅行體に倣ひて記述し、置治都會たる福井市を其の首途とせり、されど實際教授せんには、自己の郷より始むるも妨げなし。

一教授時數は、前半學年中凡そ六十時間を充つべし、而して後半學年に至り、始めて本邦の地理、及史談に入るべき順序に従ふを要す。

一教授者の都合によりて、史談の事項を省かんも可なり、此の時

高城與五郎編

生徒用

小學福井縣誌

全

福井市 二書房藏版

小學福井縣誌

緒言



一此の書は、小學兒童に、福井縣地理の大要を授け、兼ねて郷土史談の一斑をも知らしめんとて、實際教授の便利と、學力の程度とを考へて、編纂したるものなり。

一此書は、旅行體に倣ひて記述し、置治都會たる福井市を其の首途とせり、されど實際教授せんには、自己の郡より始むるも妨げなし。

一教授時數は、前半學年中凡そ六十時間を充つべし、而して後半學年に至り、始めて本邦の地理、及史談に入るべき順序に従ふを要す。

一教授者の都合によりて、史談の事項を省かんも可なり、此の時

は、教授時數を凡う三十時間とすべし。
一此の書には附圖の編製あり、此の書學習の際、彼是對照の便に供しぬ。

一山川都會等の位置の記憶を確實にせんが爲めに、時々生徒をして輪廓地圖を用ひて、これに山川岬灣都會鐵道等の名稱符號等を記入せしむるを可とす。

一此の書の統計は、福井縣第五回縣治一班、并に福井縣農商工年報(第十回)に據りぬ。

明治二十八年五月

編 者 識

小學福井縣誌

第一 總論

諸子ハ、既ニ學校近傍ノ地理ヲ學ビシナラン、次ギニ學ブベキハ、我が福井縣ノ地理ナリ。余ハ今ヨリ諸子ト連レダチテ、縣内ヲ旅行シ、途スガラ地理ヲ語り、又所ニヨリテ、歴史ノアラマシヲモ談スベシ。

先ヅ地圖ヲ見ヨ。福井縣ハ、越前ト若狹トノ二箇國ニシテ、北陸道ニ屬セリ。東北ハ加賀ニ。東南ハ飛驒美濃ニ。西南ハ丹後、丹波、近江ニ界シ、西北



區劃

ハ里、南北凡ソ五里ナリ。一里四方ヲ一坪トシテ
算スルトキハ、越前ハ二百十四方里、若狹ハ十五
方里ナリ。サレバ我が福井縣ハ、甚ダ廣キガ如
クニ思フベケレドモ、ソノ實ハ、大日本帝國ノ一
部分ニシテ、ワヅカニ全國面積ノ、百六分ノ一二
過ギザルナリ。縣内ヲ分チテ十一郡・一市トス、
即チ越前ニハ郡・一市、若狹ニ三郡アリ。見ヨ、地
圖ニ彩色ヲ異ニシタルハ、郡市ノ區分ナリ、左ニ
其名ヲ示サン、諸子宜シク記憶スベシ。

越前國

足羽那 吉田郡 坂井郡 大野郡 今立郡
 丹生郡 南條郡 敦賀郡 福井市

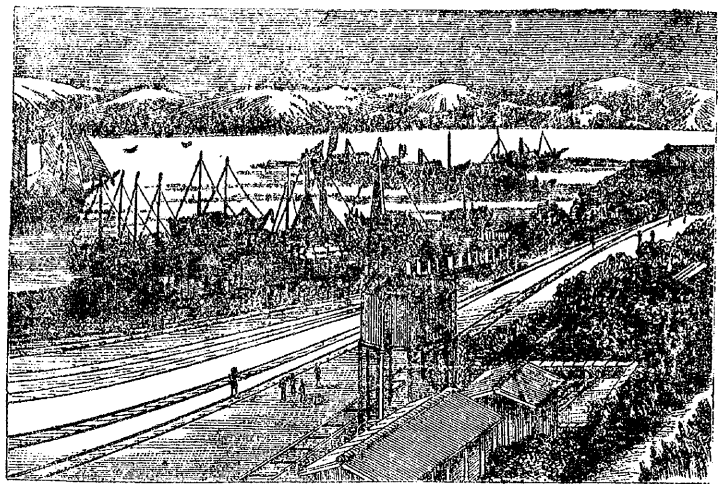
若狹國

三方郡 遠敷郡 大飯郡

郡市ノ下ニハ多クノ町村アリ。今試ニ諸子ノ住
 メル所ノ郡市町村ノ名ヲ語レ。

海岸

次ギニ海岸ノ有様ヲ見ヨ。若狹ハ、岬灣ノ出入極
 メテ多シ、大島半島ハ高濱灣ノ東ニ斗出セリ、ソ
 ノ北端ヲ鋸崎ト云フ、松崎ト相對シテ小濱灣ヲ
 ナス、小濱港ソノ内ニアリ。松崎ヨリ外面濱ヲ



金崎ヨリ敦賀港ヲ望ム

經テ、越前ニ至ル一帶ノ海
 岸ハ、岬灣ノ出入サラニ多
 クシテ、岬ノ名高キモノニ
 黒崎、常神岬アリ。
 越前ハ海岸ノ屈曲甚ダ少
 シ、ソノ中最モ著シキモノ
 ヲ敦賀灣、立石岬、越前岬ト
 ナス。敦賀灣ハ水深クシ
 テ、三面殆ンド山ヲ繞ラセ
 リ、實ニ北陸第一ノ良港ナ

リ、灣口ナル立石岬ニハ、燈臺アリテ船舶航海ノ便利ヲハカレリ。

スベテ海岸ハ、到ル所漁網ノ利多シ、サレド斷崖危巖處々ニソバダチ、殊ニ冬ハ波荒クシテ、航海ニ便ナラズ。

山脈

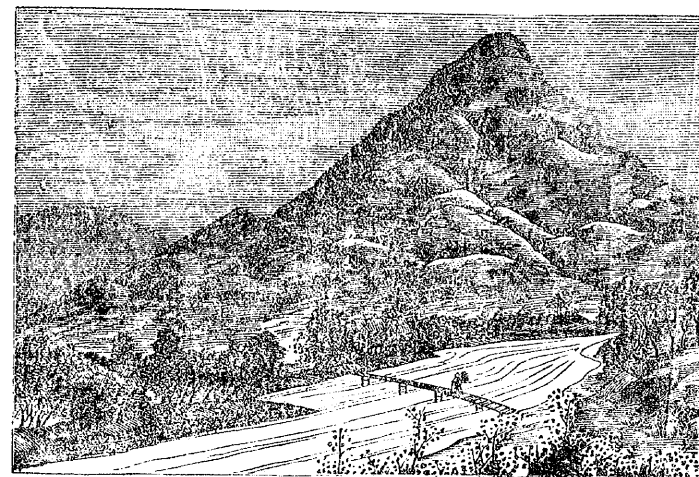
東南西ノ三方ハ、山脈ニテ圍マレタレバ、縣内に到ル所トシテ、山ヲ見ザルハナシ。

越前ノ木芽嶺ヲ以テ、縣内ノ地勢ヲニツニ別テリ。嶺ノ北ナル南條、今立、丹生、足羽、吉田、坂井、大野ノ七郡ヲ嶺北ト稱ヘ、ソノ山脈ヲ嶺北山脈ト云

山脈北

フ。嶺ノ南ナル敷賀、三方、遠敷、大飯ノ四郡ヲ嶺南ト稱ヘ、ソノ山脈ヲ嶺南山脈ト云フ。

嶺北山脈ヲ分チテ、東南山脈、東北山脈、西海岸山脈、中央山脈ノ四トナス。東南山脈ハ加賀ノ白山ヨリ起リ、高山、峻嶺トナリテ、大野郡ノ東南部ヲ繞リ、西ニ走リテ南條郡ノ栃木嶺ニ連ル、コノ脈大野郡ニアリテハ、白山、別山、足倉山、大日岳、油坂嶺、蠅帽子嶺トナリ、又分レテ荒嶋岳、宜南峯トナリ、今立郡ニアリテハ冠岳トナリ、南條郡ニアリテハ夜叉岳ノ諸山トナル。東北山脈モ亦白



荒島岳

山ヨリ起リ、西北ニ走リ
 テ、大野郡ノ大日山、兜山、
 鷲岳、坂井郡ノ丈鏡山、火
 燈山、劔岳、高洞岳トナリ、
 海ニ至リテ盡ク。西海
 岸山脈ハ、坂井郡ノ鷹巢
 山、國見岳ヨリ起リ、西南
 ニ赴キテ、丹生郡ノ越知
 山、厨城山トナリ、尚ホ南
 ニ亘リテ、南條郡ノ鉢伏

嶺南
山脈

山、木芽嶺トナリ、終ニ東南山脈ニ會ス。中央山
 脈ハ、東南山脈中ノ冠岳ヨリ脈ヲ分チ、西北ニ走
 リテ南條郡ノ日野山トナリ、コレヨリ北ニ赴キ
 テ、足羽郡ノ白椿岳、一乘山、文珠山トナリ、吉田郡
 ノ吉野山、永平寺山ニ連ル。

嶺南山脈ハ、嶺北ノ東南山脈ニ連リ、敦賀郡ニア
 リテハ、刀根越、深坂嶺トナリ、西ニ走リテ三方郡
 ノ三十三間山トナリ、ソレヨリ遠敷郡ニ亘リ、大
 飯郡ニ入リテ三國山、青葉山トナル。支脈中ノ
 名山ハ、敦賀郡ニ野坂山、榮螺岳、遠敷郡ニ多太岳

後瀨山・天下城山・久須夜岳等アリ。

以上ノ諸山脈中ヨリ、松杉、檉、栗等ノ木材、熊猪、兔等ノ諸獸、及金銀銅鉛等ノ鑛物ヲ出ス。

嶺北ノ地ハ川流甚ダ多ク、概テ源ヲ東南部ノ山間ヨリ發シ、終ニ坂井郡ノ低地ニ集リテ一大川トナリ、北ニ流レテ海ニ注グ、ソノ最モ大ナルモノヲ九頭龍川トナス、日野・足羽ノ二川コレニ次グ、コレヲ越前ノ三大川ト稱ス、舟運ノ便ニ乏シケレドモ、灌溉ノ利極テ多シ。

九頭龍川

九頭龍川ハ源ヲ油坂嶺ヨリ發シ、多クノ谷川ト、

川

日野川

眞名川トヲ合セテ西北ニ流レ、大野・吉田ノ二郡ヲ貫キ、日野川ヲ入レテ三國港ニ注グ、河口ヨリ水源マデ、凡ソ二十八里ナリ。

日野川ハ源ヲ南條郡ノ夜叉池ヨリ發シ、北流シテ郡ノ中央ヲ貫キ、丹生・今立ノ二郡ヲ分界シ、淺水川・足羽川等ヲ合セテ九頭龍川ニ入ル、ソノ長サ凡ソ十八里ナリ。

足羽川

足羽川ハ源ヲ今立郡ノ南境ヨリ發シ、今立郡ヲ貫流シテ足羽郡ニ入リ、ソレヨリ西北ニ流レテ日野川ニ入ル、ソノ長サ十七里餘ナリ。

嶺南諸川

嶺南ハ、地形狭キガ故ニ大川ナシ、ソノ中ニテ稍大ナルモノヲ遠敷郡ノ南川、北川、敦賀郡ノ笙川、三方郡ノ耳川トス。ソノ他、大飯郡ニ佐分利川、三方郡ニ鮒川アレドモ皆小流ナリ。

湖

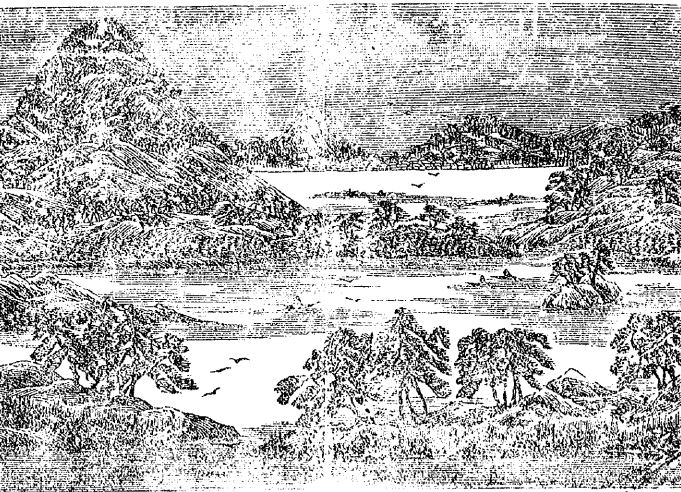
以上ノ諸川ヨリ、鮎、鮒、鰻、鰻、鰻、鰻等ヲ産ス。湖ハ三方郡ノ三瀉湖、坂井郡ノ北瀉ヲ稍大ナルモノトス。ソノ他、三方郡ニ日向湖、丹生郡ニ武周池、南條郡ニ夜叉池等アリ。

三瀉湖

三瀉湖ハ三方郡ノ北部ニアリ、三湖並ベルガ故ニ、コノ名アル由ナレドモ、ソノ實ハ上中管水月

北瀉

ノ四湖、相連リテ海ニ通ズルナリ。管湖ハ小ナレドモ、ソノ他ハ周回各二里餘アリ、湖邊ニハ松樹、桃林アリテ、風景最モ佳シ、又湖中ヨリハ鰻、鰻、鰻等ヲ産ス。



三瀉湖

鯉等ヲ産ス。

日向湖ハ、三瀉湖ノ北ニアリテ海ニ通ズ、ソノ水甚ダ深シ。武周池ハ越知山ノ麓ニアリ、西流シテ大味川トナリ海ニ入ル。夜叉池ハ、南條郡最南ノ深谷ニアリテ、日野川ノ源ヲナス、池邊ニ班竹ヲ生ス、コノ竹ハ、杖・煙管ノられ、筆ノぢく等ニ用ヒラル。

縣内山多クシテ、平野ハ全面積ノ三分ノ一二過ギズ、サレド嶺北ノ地ハ、三大川ニ沿ヒテ平野少カラズ、到ル所、地味肥エテ農産物ニ富メリ。

平野

坂井、吉田、足羽ノ三郡ニ亘レル平野ハ、縣内第一ノ廣野ニシテ、田圃能ク開ケ、米穀野菜綿桑麻茶等ヲ産ス。南條、今立、丹生三郡ノ日野川ニ沿ヘル所モ、亦廣キ平野ニシテ、米穀桑麻藍蘭等ニ適セリ。

大野郡ノ大野地方ハ、内ニ塚原野・木本野等ヲ含ミテ、平野三里四方ニ亘レリ、勝山地方ト共ニ、米麥菜種煙草桑等ニ適セリ。

敦賀郡ノ平野、及耳川・南川・北川ノ沿岸ハ、地稍廣クシテ米穀桑菜種藍等ニ宜シ。

氣候

本縣ハ南ニ山ヲ負ヒ、北ニ海ヲ受クルガ故ニ、氣候一般ニ寒冷ナリ、冬ニ至レバ西北風強ク吹キ、雪降ルコト多シ、殊ニ嶺北ノ東南山地ノ如キハ、寒氣甚シクシテ降雪モ亦深ク、五六尺ヨリ一丈ニ至ル所アリ。嶺南地方ハ嶺北ニ比ブレバ、稍温暖ニシテ降雪モ亦少シ。

第二、各地旅行

諸子ハ、右ニテ略、縣内ノ大勢ヲ知レルナラン、サレバコレヨリ諸子ト共ニ、各所ノ地理ヲ探ランニ、先ヅ福井市ヨリ始ムベシ。

福井市

福井市ハ足羽郡ノ西北部ニ位シ、縣内第一ノ都會ナリ、人口四万一千餘アリ、モト北^{キタ}莊^{シラ}ト稱ヘシガ、凡ソ二百七十年前ニ、今ノ名ニ改メタリ。足羽川市街ヲ貫キ、コレニ九十九橋^{ヤサヒハシ}幸橋^{サチハシ}ヲ架ク。市内ニハ縣廳ヲ始トシテ、縣會議事堂、學校、病院、郵便電信局等ノ宏壯ナル建物多ク、商家軒ヲツ

ラネテ頗ル賑力ナリ。コノ地ノ名産ハ羽二重ヲ第一トシ、奉書紬コレニ次グ。市ノ東方中央ニ近キ所ニ福井城址アリ、舊藩主松平氏ノ居リシ所ナリ。

城
コトノ

諸子は錦繪をむいて、昔の城の有様を見たることあらん、すべて城は中央に天主閣あり、その下に多聞櫓あり、三重又は四重の石垣にてこれを繞らせり。又内濠と外濠とあり、内濠より内は大名即ち殿様の住む所にして、丸の内と稱す、外濠より内は士の住む所と一、外濠の外は城下と稱して、町人の住む所とせり。

大名は領内一切の政事を掌り、一年隔てに江戸に参勤せり、士の家来と稱し、大名に仕へて文武の常職をはげみ、毎月朔日十五日に登城せり。

神社ニハ神明神社、佐佳枝廼社、柴田神社等アリ。

余はこれより佐佳枝廼社に就きて、少く話すべし、この神社は、舊福井藩主松平氏の先祖にあたれる松平秀康を始として、徳川家康・松平慶永を合せ祀れるところなり。

松平
秀康

松平秀康は征夷大將軍徳川家康の子なり、幼き時の名を於義丸といひき、羽柴秀吉の養子となりて、始めて秀康と稱へき、十四歳にして初陣の功名を

松平慶永

あらはしけり。うの後、結城・晴朝の養子となり、關原の戦に、下野の宇都宮を守りて軍功を立てたり、家康よりて、秀康を越前六十八万石に封じぬ、これ今より凡そ二百九十餘年前のことなり。秀康、北莊に入りて、心を政事に留め、租税を薄くし、窮民を賑はし、儉約をすゝめ、奢をいまいを、職業を勵まし、道路を開きなむして、あまねく善政を布けり。斯く福井藩は、徳川將軍の親戚なりしかば、世に御家門と稱して、他の大名と分けたりき。松平慶永は、徳川家康の子孫・田安齊匡の子にして、第十六代目の福井藩主なり。七八歳の頃、父君ある夜、慶永を召して、千字文を讀めと命ぜしに、す

すらと全文を讀み終りて、一字をも違はざりければ、父君その記憶の強きを賞えて、筆墨を賜ひき。十一歳の時、將軍家慶の命によりて、越前守松平氏の嗣子となり、福井三十二万石を領しけり。封に就きて後、深く心を藩政に盡し、晝夜文武を勵み、まば、領内をめぐりて、民の苦を免る所を訪ひ、又深く神を敬ひき。これより先、外國船は、近海に出沒せしが、遂に嘉永六年に至り、米船・相摸の浦賀に來りて、貿易をもとめしより、天下にはかに騷しくなりて、諸大名は兵をくり出して、海岸を守り、今にも戦争の始まらん有様なりき。この時、慶永は、命を下して、尊王の大義と、宗家に對

する道とをさとし、君臣一體となりて、國事に盡すべきことを示し、又外國を處することに就きて、一ぱく幕府に建言したりき。その後、將軍御世に、登城をとりめられ、程なく再び出で、幕政をさばき、王政復古の後、議定職、民部卿、大藏卿に歴任せられて、大に國事に力を盡しけり。慶永、斯く朝廷に對し奉りて、尊王の大義をつく、宗家ある徳川氏に對しては、誠意を以てこれを助け、能く忠孝を全うせしのみならず、人と爲りて鈴木主税、中根雪江、横井小楠、橋本左内の如き温恭寛仁にして、よく人を用ひしかば、その補佐として

鈴木主税

中根雪江

横井小楠

名臣ありき、世に春嶽公とは、この慶永のことをいふなり。鈴木主税は、英敏果斷にして愛國の志深く、忠孝の心厚かりし人なり。初め町奉行等の役を務めて、治績をあげ、その後藩主に用ひられて、藩政をあらためたり。中根雪江は、人と爲り温良正直にして、文才は富み、又書を能くせり、深く藩主に用ひられ、常に公を佐けて、大小の政務にあづかりき、されば雪江卒して後、藩主自ら墓表をねらびけり。横井小楠は肥後の人なり、賢明にして思慮深く、非凡の見識をいだけり、藩主のひと爲りを知りて、小楠を越前にまねき、上客としてあつかひけり。これより

小楠・藩主の顧問となりて、大に藩内の弊風をあらため、又まばく幕府に對して、建言するところありき。

橋本左内

橋本左内は景岳と號す、その家世々醫を業とせり、七歳の頃より書を読み始めぬ、十歳にしてすでに三國史といへる歴史書を講釋し、十五歳の時啓發錄をあらはして、自ら志を述べたり。それより大坂に出で、洋學を學びしが、父歿して後は、家に歸りてその業をつげり、時しも幕府の末路にあたり、内外事多ありしかば、藩主の左内の材の大に用ふべきを察し、明道館といへる學校の幹事となりき。左内これより藩政にあづかり、將軍世繼のこ

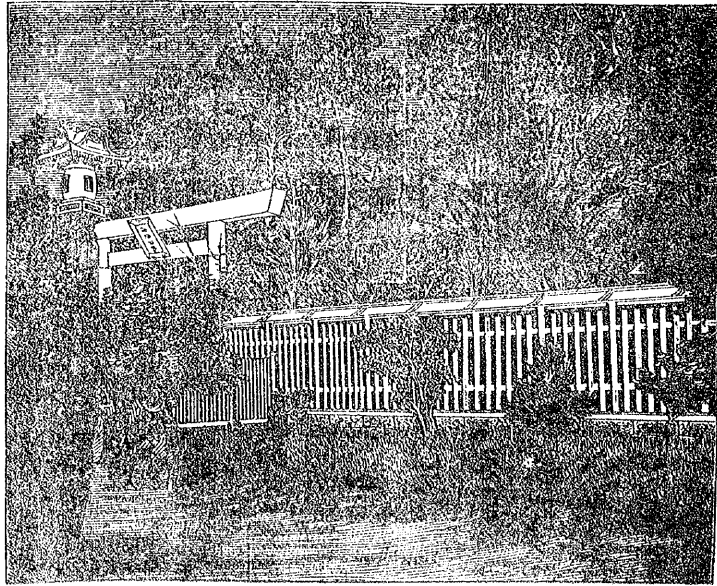
柴田勝家

と起るに及びて、藩主の命を受けて、ひうかに京都に赴き、公卿志士に接して、嗣君の事に力を盡したり。然るに、安政五年井伊大老のために、江戸に捕へられて遂に斬られぬ、時に年二十六なり、後に至り福井に改め葬られたり。左内は、そのすがた恰も婦人の如くなりしが、氣象すぐれ、見識高くして、効少の頃より、すでに大人の風ありし人なり。明治の御代に至り、朝廷より横井小楠、橋本左内に正四位、中根雪江に従四位を贈られぬ。柴田神社は、右大臣織田信長の宿將、柴田勝家を祀れる所なり。勝家武勇すぐれたりければ、鬼柴田と呼はれあり、戦功によりて北莊に封ぜられしより、

越後の上杉氏にあたり、信長をして大功を成さしめたり。勝家北莊に城を構へて、善政を布けること多かりし中にも、九頭龍川に舟橋をつくり、足羽川に九十九橋を架け、枋木嶺の新路を開きしなどは、その最も著しきものなり。信長薨て後、羽柴秀吉の威權ひとり盛んにして、鬼角信長の遺子に無禮なりければ、勝家大に怒りて、遂に秀吉と戦を開くに至れり。勝家兵を近江に出し、が、賤岳の戦に大に敗られしかは、退きて北莊に入れり。秀吉逐ひ来りて足羽山に上り、火をはなちて城に迫りしかば、勝家最早これまでと思ひけん、火を城にはなちて自殺しけり。時に天正十一年にして、松平秀

康入國の年を去ること、十八年以前のことなり。

サテ余ハコレヨリ諸子ト共ニ市街ヲ少シク離レテ、吉田郡牧、島ニアル別格官幣社タル藤島神社ニ參詣スベシ、コノ神社ハカノ楠公ニモ劣ラザル忠臣、左近衛中將贈正一



社 神 島 藤

新田
義貞

位新田義貞公ヲ祀レル所ナリ。

新田義貞は上野の人にして、その先祖は八幡太郎義家より出づ、初の勤王の兵を起して、北條氏を鎌倉に亡ぼせり、その後、足利尊氏の謀反するに及びて、常に忠義を盡しき。然るに朝廷の御運拙あうけて、逆賊の勢日に強かりしかば、義貞勅諭を奉り、一族を率ゐて敦賀に至り、金崎城に據りぬ、既にして城中兵糧盡きければ、義貞、松山に赴きしが、幾ほどもあうて城陥りたり。それより、松山に據り、瓜生氏一族と共に、當國一の賊將足利高經を討ち、一ばくこれを破り、進みて高經の守れる

足羽七城を攻めぬ。然るに、その一城なる藤島のみに手固くして、寄手固く見にたりければ、たゞ一攻に落しくれんと、急に五十餘騎をいたがへ、路をかへ畔を傳ひて向ひけるほどに、賊兵三百に出會ひ、圖らずも燈明寺驛に討死しけり、この時三十八歳、頃は延元二年にして、今より凡そ五百六十年以前なり。

義貞の誠忠始終かはらず、朝命を奉りて東西に奔走せしが、こゝに至り、志を空くし恨をのみて歿せしころ歎はしけれ、されど明治の御代に至り、その忠魂は神として祀らるゝに至りぬ。

市内ニアル寺院ノ名高キモノニハ、東西本願寺

別院、運正寺、專照寺等アリ、專照寺ハ越前四箇本寺ノ一ナリ。

今を去ること凡そ六百餘年前、北條氏執權の時代には、佛教ます／＼ひろがり、學問深き僧侶多く出で、諸の宗派を開けり。親鸞聖人即ち見真大師も、またこの頃の人にして一向宗の開祖なり、聖人初めの名を範宴といふ、京都にありて專修念佛を唱へたりしが、故ありて越後に流されぬ、それより鬘をたくはへて、名を親鸞と改め、赦されて後、北陸その他の諸國をめぐり、佛教の理合を巧に説きければ、老幼男女の別なく、争ひてこれに歸依しけり。その後弟子等、聖人の子孫を請ひて、四箇本寺

親鸞聖人

を建つるに至れり。四箇本寺とは、專照寺の外、毫攝寺、證誠寺、誠照寺よりて、共に今立郡にあり。

足羽山

諸子ハ既ニ市内及近村ナル、名高キ神社寺院ニ參詣シ、又ソノ由來ヲモ略知リタルナラン、コレヨリ足羽川ノ南ニアタレル足羽山ニ登ルベシ。足羽山ハ又愛宕山トモ云フ、コハニ登レバ、近ク市街ヲ一目ニ見下シ、遠ク山々ヲ見渡スベシ、實ニ好キ景色ナリ、サレバ春秋ノ頃ニハ、遊山ノ人々甚ダ賑ヘリ。山ノ中ホドニ足羽神社アリ、繼體天皇ヲ祀レル所ナリ、又頂ニモ天皇ノ御

繼體天皇

像及招魂社アリ。

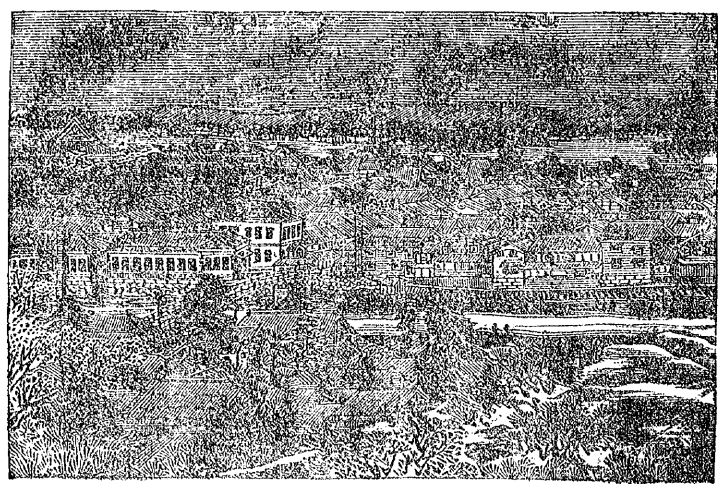
繼體天皇は、第一代神武天皇より第二十六代目にあたらせ給ふ御方あり、効き時の御名を男太迹王と申す、近江の國に生れ給ひしが、早く御父を失ひせ給ひしかば、御母と共に當國栗田部の郷に住み、民をあはれみ給ふこと深かりければ、民皆うの御恩徳に服



足羽山田

一奉りぬ。

うの頃、當國の大方は沼地にて、泥水みをぎり水害多くして、耕すべき所とては甚だ少かりき。王これを憂ひ給ひ、御年十八歳の頃より、一ば國中をめぐり、時ありては、けはしき山に登り、或は踏み難き野澤をわたらせ給ひ、遂に泥水を治めて三大川を開き、三國



福井市ナ望ム

足羽郡

の水路を切り通し給ひぬ。これより、沼地かはきて田畝となり、泥水變つて清水となり、國土日に開けて、農工の業大に進みけり。王三國にねはせし時、都にては武烈天皇崩御まゝて、御後嗣絶に給ひしかば、群臣謀りて王を迎へ奉りき。王よりて御位に即かせ給ひぬ、繼體天皇と申し奉る。余ハコレヨリ福井市ヲ出立セシ、故ニ先ヅ足羽郡ノ地理ヲ語ルベシ。

足羽郡ハ、東部ニ一帯ノ山脈アレドモ、ソノ他ハ概乎平カナリ、郡ノ東南部ナル一乘山ニハ、朝倉氏ノ城址アリ。産物ハ穀物麻藍羽二重笏谷石淨

朝倉氏

教寺砥等ナリ。

朝倉氏ハ、もと足利高經の子孫なる、斯波氏の老臣なりしが、六代敏景に至りて國主となり、一乘山に城を構へ、義景の代までは、頗る繁盛を極めき、然るに織田信長すでに近畿を平らげ、義景を攻めんとて、若狹より敦賀に入りぬ、この時近江の淺井氏等、義景を援けしかば、信長これを破り、進みて當國の諸城を攻め落し、やがて一乘城に迫らんとせしとき、義景城をすてゝ大野にかくれ、遂に自殺せり、時に天正元年にして、今より三百二十餘年前なり。信長朝倉氏を亡ぼし、更に僧兵の一揆をも平らげしかば、大に戦功を賞し、前田利家、佐々成政等に當

國の三郡を賜ひ、その餘は悉く柴田勝家に賜ひ、若狹一國は丹羽長秀に賜ひて、京都に歸れり。

足羽川ニ沿ヒテサカノボレバ大野郡ニ入ル。

大野郡ハ山岳殆ド四面ヲ圍ミ、殊ニ東南部ハ高山峻峯相連レリ、サレド中央ノ地ハ稍平坦ナリ。產物ハ生糸繭煙草麥及雜穀麻、檉松等ノ木材銅金銀鉛及石灰等ナリ。

程ナク大野町ニ着セリ。大野町ハモト土井氏ノ城下ニシテ郡ノ西北部ニ位シ、西ニ飯降山ヲ負ヘリ、人口凡ソ一万アリ、此地ノ重ナル產物ヲ

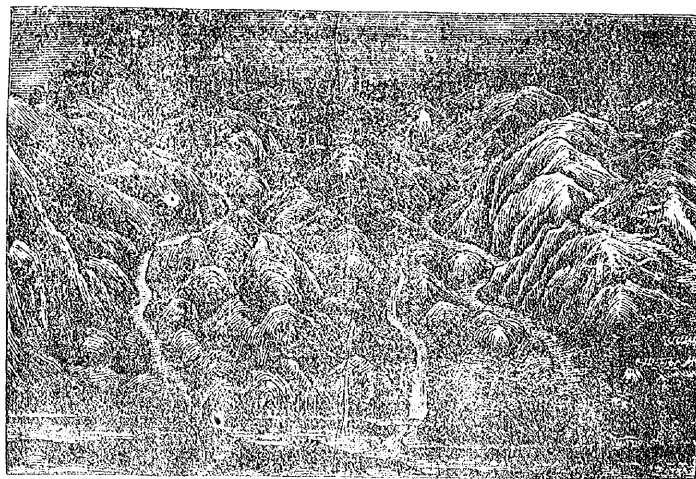
大野郡

大野町

生糸刺煙草トス。

大野城はもと龜山城といへり、織田氏の時金森長近ここに居り、次で松平秀康の城代及松平直政等ここに居れり、天和年間餘二百年より土井氏の封土となり、明治維新の際まで四万石を領せり。

大野町ヨリ東南ニ進ミ、



山 嶺 谷 面

美濃道

九頭龍川ニ浴ヒテサカノボリ、油坂嶺ヲ越ユレ
バ美濃國ニ入ルベシ、福井市^町ヨリコ、ニ至ル
街道ヲ美濃道ト云フ、道路險クシテ旅行ニ不便
ナレバ、余ハコレヨリ西北ニ行キ、九頭龍川ヲ渡
リテ勝山^町ニ達ス。

勝山町

勝山町ハ、大野町ヲ去ルコト凡ソ三里、九頭龍川
ノ邊ニアリ、モト小笠原氏ノ城下ニシテ、人口七
千餘アリ、コノ地ヨリモ亦盛ニ生糸煙草ヲ産出
ス。

勝山城は、初め柴田義宣こゝに居り、その後松平秀

平泉寺

康の城代、及松平直基等の居城となり、が、元禄年
間^{凡ソ二年前}に至り、小笠原氏この地に封ぜられ、世々
二万石餘を領して、明治の初めに至りぬ。
勝山町ノ東方一里バカリノ所ニ、平泉寺ノ遺趾
アリ、又九頭龍川ニ浴ヒテ西ニ行ケバ、郡ノ西北
隅ニ鷲岳^{ウシタケ}アリ。

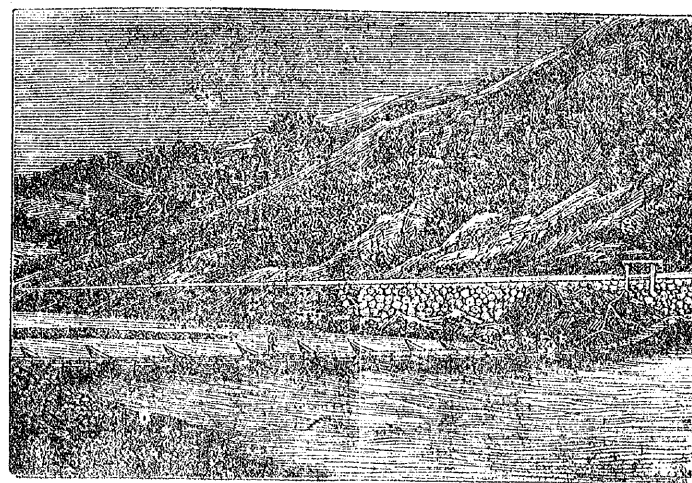
平泉寺は今より一千百七十餘年前、泰澄^{タイセウ}大師の開
きし所に、うの盛なりし時代には、寺坊三千餘
ありて、僧徒皆兵力を以て専横を極めき。然るに
天正年間僧兵一揆のため、残る所なく焼き盡さ
れて今はわづかに、うの名残^{ナノゴト}を留むるのみ。

鷲岳ガ

小學福井縣誌

鷲岳は一名を伊知地山と云ふ、この山は新田義貞の士大將、畑時能の、わづかゝ十六騎を以て足利高經の大軍を破り、遂に戦死せしところあり、時能の事に就きては、鷹巣山の所に至りてなほ語るべし。

ソレヨリ、小舟渡ノ舟橋ヲ渡リテ吉田郡ニ入ル。



小舟ノ渡

吉田郡

吉田郡ハ東部ヲ除ク外ハ、土地概ネ平カナリ。産物ノ重ナルモノハ、穀物藍羽二重鑄物川魚等ナリ。

勝山道

永平寺

郡内ニハ名邑ト稱フベキモノナシ、唯松岡村ハ市街ヲナシ、鑄物竹細工瓦ヲ産出ス、コレヨリ西ニ進メバ、二里餘ニシテ福井市ニ歸着ス。大野町ヨリ勝山町、松岡村ヲ過ギテ、福井市ニ至ル道路ヲ勝山道ト云フ、コノ里程十里三十二町アリ、コノ間車馬ヲ自由ニ通ズベシ。

松岡村ノ南ニアタリ、永平寺山ノ麓ニ、永平寺ノ

道元
禪師

巨刹アリ、今ヨリ六百五十餘年前、道元禪師ノ開
キシ曹洞宗ノ本山ナリ。



歸朝の後は曹洞宗を開き、程なく當國志比の莊に

道元禪師は京都
の人あり、幼き時
永より學問に長お、
十四歳よりて佛
門に入り、が、そ
の後宋に渡り、天

童山に留學する
こと四年に及び

に永平寺を建てたり。

鎌倉の執權北條時頼、禪師の徳高きを慕ひて、その
弟子とあれり。又禪師の高徳九重の上に達して、
後嵯峨天皇より、紫衣を賜はるに至りき。

福井市ヨリ再び吉田郡ニ出デ、北陸道ヲ行ケバ
坂井郡ニ入ル。

坂井
郡

坂井郡ハ隣國・加賀ト、丹生郡トノ界ニ、一帯ノ山
脈アレドモ、ソノ他ハ概子平野ナリ。産物ニハ、米
麥雜穀綿麻菜種白木綿紙類製茶酒繩魚類等ア
リ。

稱念寺

丸岡町

諸子ハ忠義ノ爲メニ戰死セシ、新田義貞ノコトヲ記憶セルナラン、公ノ墳墓ハ長崎ノ稱念寺ニアリ。コレヨリ金津町ニ至ラントス、故ニ丸岡町ノコトヲ語ルベシ。

丸岡町ハ郡ノ東部ニアル名邑ナリ、人口凡ソ四千市街ノ東ニ霞城^{カスガ}アリ、有馬氏ノ舊城趾ナリ。北陸道ハ、コレヨリ北ニ向ヒ牛谷^{ウシヤ}ヲ經テ加賀ノ國ニ入ル。

織田氏の時、柴田勝豐^{カサトヨトヨ}、豐原城をこの地に移せしことあり。徳川氏の初め、本多氏の居城たりしが、元禄

金津町

吉崎御坊

年間より有馬氏の封土とあり、明治の初めに至るまで五万石を領せり。

サテ我等ハ、金津道ヲ行キテ金津町ニ至ル、コノ地ハモト北陸道ニアタレル一市街ナリシナリ、人口三千餘アリ、缺ヲ名産トス。コレヨリ北ニ進メバ、道路平カナラズシテ、車馬ノ通行ニ便ナラズ。加賀界ニ至レバ、左ノ方ハ海濱ナリ、コノ邊ヲ濱坂浦ト云フ、ソノ南ニ北潟アリ、コノ湖ニ臨ミテ、名高キ吉崎御坊^{ヨシサキミヅウラ}アリ。

吉崎御坊は、蓮如上人の建てし所なり、上人は親鸞

蓮人

蘆原
温泉

三國
町

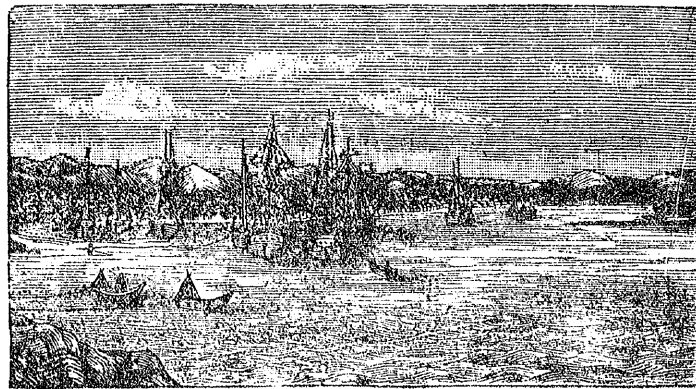
聖人七世の孫にして、一向宗中興の祖なり、初め宋に渡り、天台山に登りて、十余年の間佛教を究め、歸朝の後、祖師聖人の舊蹟をたづねんとて、北陸道に下り、巧に貴賤同俗を感化したりき。それより關東諸國をめぐりて、一旦京都に上りて、その後再び當國に來りき、この時守護朝倉敏景深く歸依して、遂に吉崎の御坊を開くに至りぬ。

吉崎ヨリ小牧道ヲ行キ、途中蘆原ノ温泉ニ浴シ、尚ホ西ニ進ミテ三國町ニ着ス。

三國町ハ、坂井郡ノ西部ニ位シ、九頭龍川ノ口ニアリ人口凡ソ一万アリテ市街賑カナリ、港内ニ

ハ船舶常ニ集リ、敦賀港トノ間ニ漁船ノ往復アリ。コレヨリ西南ノ海邊ヲ三里濱ト云フ、ソノ西ニ見ユルハ鷹巢國見ノ諸山ナリ、鷹巢山ニハ畑時能ノ城址アリ。

畑時能ハ六郎左衛門と稱ス、新田義貞に従ひて、義を當國にとあへて、義貞戦死の後、殘兵僅に二十七騎を以て、



三國港

この山に據り、いむく足利の大軍を破りき。その後、時能・鷲岳にうつりて、遂に戦死せしことは、諸子のすでに知れるあらん。

燈明寺

福井市ヨリ、三國町ニ至ル道路ニ二線アリ、九頭龍川ノ左岸ニ沿ヒテ行クモノヲ新保道ト云ヒ、吉田郡ヲ過ギ川ノ右岸ヲ行クモノヲ三國道ト云フ、余ハ今歩行ニ便利ナル三國道ヲモドルベシ。吉田郡ニ入り、九頭龍川ヲ渡レバ、間モナク燈明寺トキザメニ至ル、コノ地ハ新田義貞ノ戦死セシ所ナリ、石碑アリテ、新田義貞戦死此所トキザメ

丹生郡

リ。余ハ諸氏ト共ニ感泣シテコレヲ拜シ、更ニ藤島神社ニ參拜シテ福井市ニ着ス。コレヨリ北陸道ニ沿ヒテ、西ノ方ニ行カントス、故ニ先ヅ丹生郡ヲ案内スベシ。丹生郡ハ山多クシテ平地少ナシ。産物ニハ、穀物桑、松杉等ノ木材、木綿織物、魚類、海藻等アリ。福井市ヲ出デ、西南ニ行ケバ、大森ヲ經テ織田ニ至ル、コレヨリ西ニ進メバ、梅浦ニ達スベシ、コレヲ梅浦道ト云フ、コノ邊ノ浦々ハ、漁網ノ利殊ニ多シ。織田ヨリ東ニ進メバ、西田中ニ至ル、コノ

近村ヨリ石田縞ト稱スル木綿織ヲ出ス、ソレヨリ日野川ヲ渡リ、吉江ヲ過グレバ、北陸道ニ出ヅルナリ。

福井市ヨリ淺水ニ至レバ、ソノ村端ニ泰澄寺アリ、泰澄大師ノ生レシ所ナリ。

泰澄大師は、今より一千二百年前頃の人なり、生れつき賢くして神童と稱せられき、五六歳の頃遊び戯るゝに、泥にて佛の像を造り、これに花水を手向くるをこの上なき樂とせり。成長の後越知山に登り、藤の皮を剥ぎて衣となし、松の實を拾ひて

泰澄
大師

食物に充つるなど、種々の苦行を積み、専ら佛教を修めければ、その徳行遂に朝廷に聞いて、鎮護國家の法師とせられ、神融禪師の號を賜ひぬ。

大師は道俗を導き、のみあらず、道路を作り土地を拓き、農事を勵まし、病を治するなど、いけば、その効徳によりて、朝廷より更に大和尚の位と、泰澄の名とを賜はりぬ。彼の平泉寺・豐原寺及大谷寺等、皆大師の開きし所あり。

ソレヨリ程ナク、今立郡ニ入り、鯖江町ニ着ス。

今立郡ハ西北部ノミ平地ニシテ、ソノ他ハ概ネ山地ニ屬セリ。産物ニハ、米及雜穀、桑木材、生絲、繭

今立
郡

町鯖江

羽二重蚊帳紙類笠等アリ。

鯖江町ハ郡ノ西部ニアリ、北陸道ノ一市街ニシテ、人口凡ソ四千アリ。市内ニ誠照寺ノ巨刹アリ。當國四箇本寺ノ一ナリ。コノ地ハ享保年間百七十余年前間部氏五万石ノ封土トナリ、ソノ後續キテ明治維新ノ際マデ、城下タリシ所ナリ。コレヨリ北陸道ヲ南ニ行ケバ、南條郡ニ入りテ、間モナク武生町ニ至ルベケレドモ、尚ホ今立郡ノコトニ就キテ少シク語ルベシ。鯖江町ヲ發足シ、粟田部道ヲ行ケバ、横越ト云ヘル所ニ證照寺アリコレ

部粟田

郡南條

亦四箇本寺ノ一ナリ。粟田部ハ鯖江町ノ東南三里餘ノ所ニアリ、郡内第二ノ名邑ニシテ、蚊帳生糸ヲ産ス。粟田部ノ南ニアタリテ、五分市ニモ亦四箇本寺ノ一ナル毫攝寺アリ。コノ隣村岡本村ヨリハ、盛シニ鳥ノ子紙・奉書紙・美濃紙ヲ出ス、所謂五箇ノ紙トハコレヲイフナリ。又コレヨリ西南ニアタリテ味間野アリ、コノ所ニ男太迹王ノ宮居シ給ヒシ古蹟アリ。尚ホ粟田部道ヲ行ケバ、南條郡ニ入りテ武生町ニ達ス。南條郡ハ、日野川ニ沿ヒタル所ニ平地多クシテ、

武生町

ソノ他ハ山地ニ屬セリ。產物ノ重ナルモノハ、麻生絲蚊帳、紹打物、石灰等ナリ。
武生町ハ郡ノ東北隅ニアリ、ソノ昔國府トテ、國司ガ政事ヲ執リシ府タリキ、故ニモト府中トイヘリ。人口一万四千餘、商工ノ業盛ニシテ、市街賑カナリ。市内ニ惣社及國分寺ノ遺跡アリ、今ヨリ一千百餘年前、聖武天皇ノ建立セシメ給ヒシ所ナリ。コノ地ノ名產ヲ刃物類、蚊帳、墨、流漆、紹等トス。

豐臣氏の時、前田利家初め其他の諸將この地に居

北陸道

りしことあり。徳川氏の時に至り、本多氏二万石の城下とありて、福井藩に屬せり。明治維新の際に、府中を改めて今の名としたり。

我等ハコレヨリ敦賀道ヲ行カン、故ニ先ヅ北陸道ノコトヲ語ルベシ。武生町ヨリ鯖波湯尾、今庄ヲ經テ、近江界ナル枋木嶺ヲ越ユレバ、程ナク柳瀬ニ達スベシ。北陸道ハ、加賀界ヨリ枋木嶺マデ、二十八里二十二町余アリ。武生町ヨリ湯尾マデハ、車馬ノ通行自由ナレドモ、コレヨリ以南ハ、道路次第ニ險シク、殊ニ枋木嶺ハ漸ク人馬ヲ

松山

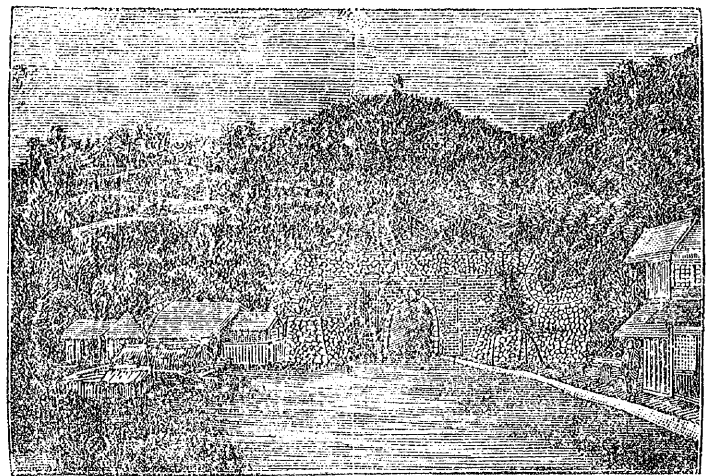
燧城

瓜生兄弟

通ズベシ。湯尾ノ東ニアタレル松山ニハ、昔新田義貞ヲ援ケテ義兵ヲ擧ゲタル、瓜生保ノ城址アリ。又今庄ノ近傍ニハ木曾義仲ガ、平氏ノ軍勢ヲ拒ギシ燧城ノ址アリ

瓜生保ハ判官と稱しぬ、越前の人なり、延元の亂にその弟義鑑・源琳・重・照等兄弟五人、共に脇屋義助の子・義治を大将お押したて、松山城に據りけるに、保義鑑は高師泰の大軍にあたり、激しく戦ひて討死し、源琳・重・照等は散卒を収めて、固く城を守れり、この時金崎城には、兵糧盡きければ、新田義貞・脇屋義

敦賀道



春日野陸道

助等、夜にまぎれて松山に至り、城兵を援はんとしたれども、兵數わずかに五百騎にも足らずして果さるりき。その後源琳等三人、始終忠義を守りて、まばは戦功を立てたりき。

サテ我等ハ、武生町ヲ出デ、敦賀道ヲ行クベシ、コノ道ハ近年新ニ開キシモノニシテ、途スガラ春日野嶺

郡教賀

ヲ越エ、大良ヲ過ギテ敦賀郡ニ入り、ソレヨリ大比田・杉津ヲ經テ敦賀町ニ入ル、ソノ間隧道ヲ過グルコト三ヶ所、或ハ谷ニ倚リテ進ミ、或ハ海ニ沿ヒテ歩ムガ故ニ、通行危険ナル所アレドモ、自由ニ車馬ヲ通ズベシ。サレバ北陸道ヲ往來スルモノハ、コレマデノ國道ニ由ラズシテ、專ラコノ新道ヲ通ルニ至レリ

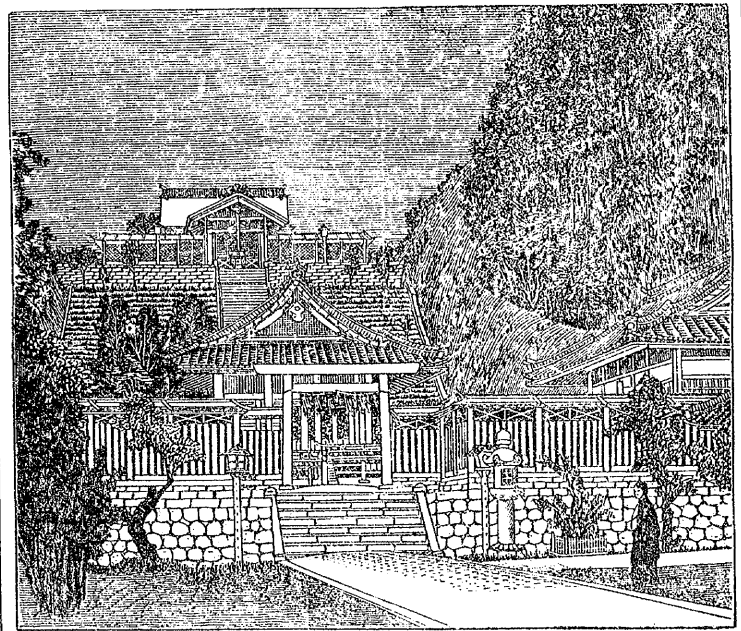
敦賀郡ハ三方ニ山ヲ負ヒ、北ノ一方ノミ海ニ臨メリ。產物ノ重ナルモノヲ石灰・筵・蠟・燭・魚類等トス。

町教賀

神社金崎
神社氣比

敦賀町ハ北ニ良港ヲ控ヘ、船舶常ニ集レリ、又鐵道アリテ近江ニ通シ、東京神戸間ノ鐵道線路ト會ス、斯ク水陸交通ノ便利宜シキガ故ニ、近國ノ貨物多ク集マリテ、市街頗ル賑カナリ、人口凡ソ一万五千アリ。コノ地ノ名產ヲ白昆布トス、コハ北海道ノ昆布ヲ製シタルモノナリ。

コノ地ニハ、古跡・神社等ノ名高キモノアリ、市街ノ東ニハ金崎ノ城址アリテ、コハ、ニ尊良親王恒良親王ヲ祀レル官幣中社・金崎ノ宮アリ、又官幣大社・氣比神社ハ、御食津大神・仲哀天皇・神功皇后



金崎宮

等ヲ合祀セリ、社殿ノ宏壯ナルコト縣下第一トス、殊ニソノ鳥居ハ、高サ三丈六尺アリ、今ヨリ凡ソ二百五十年前ニ、杜松ノ大木一本ヲ以テ、造リシモノナリト云ヒ傳フ。
延元元年新田義貞等、

尊良親王

新田義顯

皇太子及尊良親王を奉トて金崎城に據り、松山の兵と互に應援を通トキ。既にして足利尊氏、高師泰を大将とし、兵六万を率ゐて海陸より攻めしむ、城兵よく拒ぎ、日に賊千余人を斃せり。うの翌年瓜生保等、これを援はんとして戦死し、援兵兵糧兩あがら途絶にけり、義貞ひそかに城を出で、松山に赴き、夾撃を計りしが、その中に寄手いますゝ加はりて十万騎にあまり、城中にも兵糧盡きて食せざること數日、敵これに乗トて攻めければ、義貞の長男義顯先づ自殺し、親王ついで御自害あり、藤原行房、氣比氏治等も、亦士卒と共に死出の御供仕

り、金崎城陥りぬ。皇太子は敵の手に渡り給ひて、後にはかなくあらせ給ひぬ。時に延元二年三月なり。いかに亂れざる世とはいへ、畏くも皇太子・親王と呼び奉つる御方をいして、かゝる御最後を遂げさせまつり、尊氏の心中こそ、慙みても尚ほ余りありと云ふべけれ。

松原

市街ノ西ニアタリ、濱邊ニ沿ヒテ松林アリ、松原

ト稱ス青松白砂ニ映ジテ、好キ風景ナリ、コノ所ニ舊水戸藩ノ浪士、武田耕雲齋等ノ墳墓アリ

武田耕雲齋

武田耕雲齋は、もと水戸の藩士にして、勤王の志厚かりし人なり、藩主齊昭薨つて後は藩情穏かなら

かりて、正黨・奸黨の二派に分れて、互に相殺戮し、幕府は兵を出し、奸黨を援くるに至り、この時、耕雲齋は正黨の主領たりしが、忠情を奏聞せんと欲し、同志數百名を率ゐて、京都に登らんとて出發せし。然るに、幕府の固めきびしく、途を塞ぎしかば、蠅帽子嶺を越えて當國に入り、それより飢と雪との爲めに苦しめられければ、遂に加賀藩によりて降り、賊名を除かれんことを請へり。幕府これを許さずして、遂に耕雲齋以下二百余人を松原に斬りぬ。明治の御代に至り、朝廷・耕雲齋の精忠を賞し給ひて贈位の御沙汰ありき。

本郡ノ道路ニ數條アリ、敦賀町ヨリ足田・山中ヲ經テ、近江ノ海津ニ達スルモノヲ西近江道ト云ヒ、足田ヨリ新道ヲ過ギテ、近江ノ鹽津ニ至ルモノヲ鹽津道ト云フ、コノ他ニ刀根・越木・茅道アリ、サレド我等ハ、コレヨリ丹後道ヲ行キテ若狹ニ入ルベシ、敦賀町ヨリ西ニ向ヒテ二里程行ケバ、越前ノ國界ヲ過ギテ、若狹ニ入り三方郡ニ至ル。

三方郡

三方郡ハ、三面殆ド山ニテ圍マレ、西部ニ三瀉湖アリ、耳川ノ近傍ハ、田圃開ケテ穀物ヲ産ス、ソノ

他魚類石灰繩等ノ產物アリ、佐柿・河原市・早瀬・三方ヲ名邑トス。

行方
久兵衛

万治年間凡ソ二百三藩主酒井氏、三瀉湖の水害を除かんとして、中湖と水月湖との間なる、裏見坂を開鑿せんとして、これに成らざりき、その後大地震の爲めに、山崩れて水路をうづえければ、沿岸の諸村、皆水底に沈みて、大なる損害を受けしかば、藩主更に梶原某及行方久兵衛を普請奉行として、裏見坂開鑿のことを司らしめき。これより日々數多の人夫を使役し、三ヶ年を期して成就せしめんとしけり、然るに、工事中種々の困難ある事情起りた

るが爲めに、遂に梶原某の職を辭したりき。
こゝに於て、行方氏ひとりこの衝にあたり、遂に水道の疏通するに至りぬ、これを鑿通と名づゑ、兩崖石壁の高さ數丈に達し、その長さ數十間に及べり。右開鑿の後は、沿村また水害を蒙ることなく、却て新に數村を開くに至れり。行方氏はこの外に、荒井用水の大工事を成さるゝ、されば郷民との徳を仰ぎて、今にこれを尊敬せり。

三方ヨリ倉見ヲ經テ、遠敷郡ニ入り日笠ニ至ル。
遠敷郡ハ、若狹ノ國第一ノ大郡ニシテ中央ニ位シ、北ハ一面海ニ臨メリ、山岳多ケレドモ南、北兩

遠敷郡

川ノ沿岸ニ沃野アリ。產物ハ、穀物、蠶生、蠟生、綠瑪瑙、細工、漆器、紙類、吳座、筵、石灰、魚類等ナリ。

日笠ヨリ南ニ進メバ、熊川ヲ經テ近江ノ今津ニ達スベシ、コレヲ若狹道ト云フ、道路平カニシテ車馬ノ通行自由ナリ。西ニ向ヘバ遠敷ニ至ル、この地ニ若狹姫神社アリ、又龍前ニハ若狹彦神社アリ、共ニ國幣中社ナリ、遠敷ヨリ瑪瑙細工ヲ出ス。ソレヨリ一里ニシテ小濱町ニ着ス、敦賀町ヨリコハ、ニ至ル里程凡ソ十二里、ソノ間道路開ケテ車馬ヲ通ズベシ。

瑪瑙

小濱町

小濱町ハ當國第一ノ都會ニシテ、北ニ良港ヲ控
ヘ、市街繁華ナリ、人口九千余アリ、モト酒井氏十
余万石ノ城下タリ。ソノ城址ハ今尚ホ雲濱村ニ存セリコノ地ノ名
産ヲ生絲蠟燭魚類トス。又町ノ東ニ近ク西津村
アリ、漆器ヲ産ス、品質美麗ニシテ堅シ、世ニ若狹
塗ト稱スルハコレナリ。

酒井
忠勝

舊小濱藩主酒井氏ハ、徳川氏の姻親ナリ。その先
祖を忠勝タカカズといふ、寛大にして才智あり、初め徳川家
光の傳となりて、よくその職をつくりぬ。その後遂
に大老職に擧げられて、幕府の政事にあづかり、時

の將軍家光の爲めに厚くもてなされき。寛永年
間二百六十餘年前忠勝小濱に封ぜられ、十二万餘石を食
めり、封に就きて、武士道を勵まし、奢を戒め、農工を
勸め、交通を便にするなど、善政を布きしこと多か
りければ、士民今に至るまで、その徳を慕ひ、社を建
て、これを祀るに至りぬ。

忠勝、いばく將軍より領地を加増すべきよしの
上意ありけれども、固く辭して受けざりき、その意
は古より大祿を得る者、兎角寵恩にほこりて、野心
出来たるもの多し、某とても何時君恩にほこりて、
氣のちがふまじきにもあらず、又子孫に如何なる

伴信

野心の者あるまじきにも限らず、今職禄ともに分に過ぎたれば科を蒙りぬとも、御請は申すまじ」とありその慎重にして、慙寡きこと斯くの如き。
伴信友は、安永二年三百二十小濱に生れき、初め小濱侯に仕へて、よくその職を盡くし、その後病に罹りて致仕し、これより深く學問をつとめ、群書を渉獵し、敬神尊皇の志厚くして、専ら國史神典を研究したりき、その著すところの書冊百餘部に及び、皆有益の書なり。書を著すにあたりては、日夜書室に蟄居し、極暑嚴寒にも姿勢をくづさず、殊に盛夏には、やゝもすれば、隋氣の生じ易ければとて、机上に

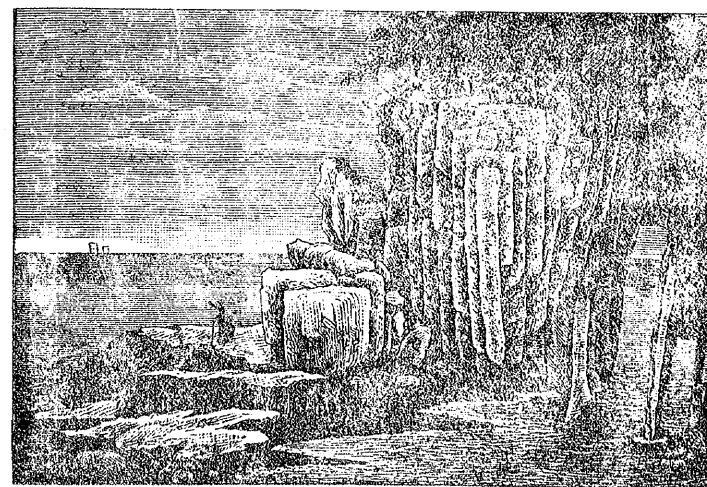
梅田雲濱

劍を倒に懸けて、殆ど頭に觸れしめて、自ら警めたりといふ。弘化三年五病みて京都に卒す。明治二十四年 朝廷その功を賞し給ひて、特に正四位を贈られぬ。

梅田源次郎は雲濱と號す、勇敢誠實にして、勤王の志厚かりし人なり、嘉永・安政の頃、京都に出で、廣く志士と交り、尊王攘夷の説を唱へて、大に國事に力を盡しき。既にして橋本左内等と共に幕府の爲めに捕へらる、江戸の獄舎に病死せり。明治の御代に至り、朝廷その誠忠を賞し給ひて、正四位を贈られぬ。

嶋久須夜岳ヲ眺メ、風景殊ニヨロシ。又東ニ福谷ノ桃林アリ、西ニ谷田部梅林アリ。

又松崎ヲ東ニ廻レバ、外面濱アリ、コノ所ハ岩洞連リテ、青松コレヲヨソホヒ、風景畫クガ如シ、殊ニ大門小門ト稱フル洞



外 面 濱

大飯
郡

高濱

門ノ如キハ、ヨク帆船ヲ通スベシ。コレヨリ丹後道ヲ進メバ、大飯郡ニ入ルベシ。ソノ間車道開ケテ、通行便利ナリ、サレド余ハ小濱ヨリ通船ニ乗リテ和田ニ着ス。

大飯郡ハ、東方狹クシテ西ニヒロガリ、大島半島中央ヨリ斗出シテ東北ニ向ヒ、山脈ハ遠敷郡ノ界ヨリ、丹波丹後ノ國境ニ亘レリ。産物ハ魚類ヲ第一トシ、石灰石材等コレニ次グ。

和田ヨリ上陸シテ、間モナク高濱ニ着ス。高濱ハ、ソノ東ニアル本郷ト共ニ、郡内ノ名邑ナリ。

丹後
道

本郷ヨリ以西丹後界マデハ、道路平カニシテ、車馬ノ往來自由ナリ。敦賀町ヨリ小濱町ヲ經テ、丹後界ニ至ル里程ハ二十里二十町トス、コレ即チ丹後道ナリ。
我等ハ、既ニ縣内ノ大略ヲ遊覽シタレバ、引返シテ敦賀町ニ出デ、漁船ニ乘リ浦々ノ風景ヲ眺メツ、海上穩カニ三國ニ寄港シ、ソレヨリ川舟ニ乘リカヘ、六里ノ川路ヲサカノボリテ、恙ナク福井市ニ歸着シタリ。

第三 結論

面積

(面積及戸口) 縣内ノ廣サハ、東西五十五里餘、南

人口

北四十四里餘ニシテ、面積二百五十九方里アリ。人口ハ六十二万三千餘人ニシテ、一方里ニ付凡

ソ二千四百人ノ割合ナリ。又各郡市ニツキテ、一方里内ニ有スル人口ノ割合ヲ舉グレバ、福井市最モ多ク、吉田・坂井・足羽・丹生・敦賀・大飯・遠敷・今立ノ諸郡コレニ次ギ、三方・大野・南條ノ三郡又コレニ次グ。

戸數

戸數ハ十一万六千余アリ、コレヲ人口總數ニ割

道路

當ツレバ、一戸ニ付平均五人三六トス
道路ニ國道・縣道・里道ノ別アリ。縣内ニテ國道ト
稱スルハ、北陸道一線ニシテ、他ハ縣道又ハ里道
ニ屬スルモノナリ。今左ニ、道路ノ重ナルモノ
ヲ舉グベシ。

街名道	起	經過地	達	里程
北陸道	越前賀	牛ノ谷、丸岡町、福井市、鯖江町。 武生町、湯ノ尾、今庄、坂原。	杉木嶺	二十八里二十二町余
美濃道	福井市	東郷村、市波、大宮。 大野町、東市市。	油坂嶺	二十里十町余
勝見道	福井市	市波、大宮	大野町	八里二十一町余
勝山道	福井市	松岡村、勝山町	大野町	十里三十二町余
三國道	福井市	安澤、定廣	三國町	五里二十町余

小牧道	三國町	舟津、北潟、吉崎、	越前賀	三	里
金津道	坂井縣北橋地 (國道線)	金津町、細呂木村	越前賀	五	里二町余
梅浦道	福井市	大森、織田村	丹生郡 梅浦	七	里三十二町余
粟田部道	武生町	粟田部村	鯖江町	五	里十七町余
河野道	南條郡四里九 (國道線)	春日野	南條郡 河野村	三	里十五町余
敦賀道	武生町	春日嶺、大良、大比田	敦賀町	十一	里三町余
丹後道	敦賀町	三方、谷見、遠敷、小濱町、本 郷、高濱、呂谷。	若狹郡 丹後	二十	里二十町余
西近江道	敦賀町	足田、山中	越前郡 近江	八	里六町余
鹽津道	敦賀町足田 (西近江道線)	新道	越前郡 近江	一	里十一町余
若狹道	連發郡日笠 (丹後道線)	熊川村	若狹郡 近江	二	里十二町余
丹波道	連發郡青井 (丹後道線)	横谷	丹波郡 丹波	五	里十九町余

鐵道

コレ等ノ道路縣内ニ縱横シ、且ツ支道四出シテ、交通甚ダ自由ナリ。
鐵道ハ、敦賀町ヨリ足田ヲ過ギ、刀根越ノ隧道ヲ經テ、近江ノ長濱町ニ通ズ、縣内延長九哩餘アリ、而シテ停車場ハ金崎・敦賀・足田ノ三ヶ所ニアリ。

北陸鐵道ハ敦賀町ニ起リ、木芽嶺ノ北麓ヲ越エ、武生町ニ出デ、福井市ヲ經テ加賀ニ入り、金澤市ヲ過ギテ、越中ノ富山市ニ達スベキモノニシテ、現時尙ホ布設中ナリ。

電信

電信ハ、加賀ヨリ國道ニ沿ヒテ架設シ、福井市・武生町ヲ過ギテ敦賀町ニ出デ、コレヨリ分レテ二線トナル、一ハ鐵道ト共ニ近江ノ長濱町ニ達シ、一ハ丹後街道ニ沿ヒテ終ニ丹後ニ通ズ、コレヲ本線トナス。又福井市ヨリ發シテ、三國町ニ通ズルモノト、勝山町ヲ經テ、大野町ニ達スルモノトアリ、コノ二線ヲ支線トス。而シテ福井市及三國・大野・勝山・武生・敦賀・小濱・高濱ノ各町村ニ郵便電信局アリ。

航路

敦賀港ヨリ、全國諸港ニ至ル航海ノ便アリ、即チ

生業ノ有様

日本郵船會社ノ汽船ハ、時ヲ定メテコヽニ寄泊シ東ハ伏木^{中越}直江津^{ナカエ}新潟^{ニヒ}等ノ諸港ヨリ、西ハ境^{ナカ}下^{カミ}關^{カミ}尾^キ道^{ミチ}神戶^{カヌヘ}津^ツ等ノ諸港ニ往復ス。又敦賀港ヨリ三國^{ミクニ}金石^{カニシ}及宮^{ミヤ}津^ツ境^{キミ}等ノ諸港ニ往來スル小蒸汽船アリ、但シ冬季ハ、風強ク浪高キヲ以テ、航海ヲ止ムルコトアリ。

(生業及產物) 生業ノ重ナルモノハ農業ニシテ、商業・工業コレニ次グ、山地ノ民ハ概ネ養蠶・樵業ヲ事トシ、海濱ノ人ハ漁業ヲイトナム者多シ。

諸子ノ家ニハ如何ナル業ヲ營ムカ、各々コレヲ語ルベシ。

生業別戸數比較

農 業	
商 業	業
工 業	業
漁 業	業
雜 業	業

農業
農産物

農業ハ縣下一般ニ行ハレ、コレニ從事スル者最モ多シ、近年養蠶ヲツトムルモノモ亦少カラズ。農産物ハ米ヲ第一トシテ、蕎麥・煙草・菜種・茶・桑等

工業製造品

アリ。

工業モ亦到ル所ニ行ハレ、各地特長ノ産物アリ製造品ノ重ナルモノハ、福井市ノ羽二重、奉書紬、大野、勝山町ノ生糸、刺煙草、及各郡ヨリ製出スル生糸繭等ナリ、就中羽二重ハ、明治二十年福井市ニテ、始メテ織出シタルモノナルガ、ソノ後販路次第ニ開ケテ、廣ク外國ニ輸出セラル、ニ至レリ、而シテソノ商況宜シキニ從ヒテ、コノ業ニ從事スルモノ漸ク増加シ、現今ハ足羽、吉田ノ二郡ヲ始トシテ、各郡ニ多少之ヲ産出セザルハナシ。

商業

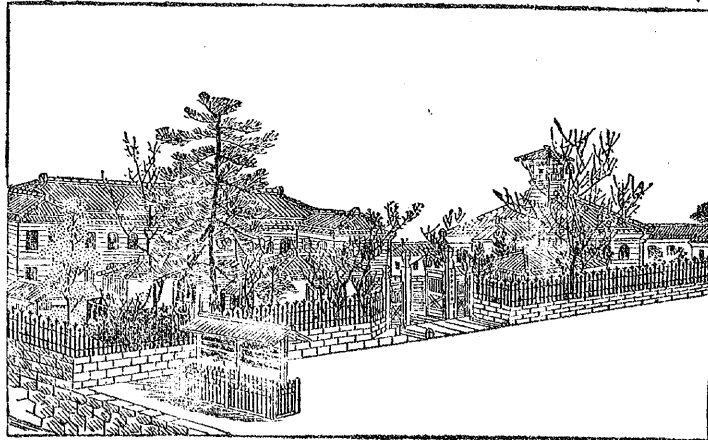
ソノ一箇年産額ハ、福井市ノミニテ三百餘万圓、全縣下ニテ四百万圓内外ニ達シ、實ニ縣内第一ノ特産物ナリトス。
ソノ他、吉田郡松岡村ノ鑄物、坂井郡ノ製茶、清酒、今立郡岡本村ノ鳥ノ子紙、奉書紙、同郡粟田部村ノ蚊帳、丹生郡ノ石田縞、武生町ノ墨流、漆刃物、敦賀町ノ白昆布、及ソノ近村ノ藁筵、遠敷郡遠敷ノ瑪瑙細工、西津ノ若狹塗等ハ、皆有名ノ製造品ナリ。

商業ハ、福井市ヲ以テ最モ盛ンナリトス、コレニ

[illegible]

鑛業
鑛業ハ大野郡ヲ第一トス
鑛物ノ著名ナルモノハ、大
野郡オホノ面谷オモタニノ銅銀、足羽郡笏
谷ノ青石、大野・南條・丹生・及
嶺南諸郡ノ石灰等トス。

縣廳
(制度) 縣廳ハ縣内ノ教育
衛生・勸業・警察等ニ關スル
事務ヲ掌ル役所ナリ。而シ
テ福井縣廳ハ、福井市ニ置
カレタリ。



福井縣廳

郡市役所

ソノ長官ヲ知事ト稱シ、書記官・警部長・収税長・參事官・典獄・屬官等アリ。

町村役場

縣廳ノ下ニ、郡役所・市役所・町村役場アリ、各ソノ縣内ノ公務ヲ掌ル、コレヲ總轄スルトコロハ、即チ縣廳ナリ。郡役所ハ郡毎ニコレヲ置キ、市役所ハ福井市ニノミコレヲ置キ、町村役場ハ郡下ノ町村ヲカギリテコレヲ置ク。

警察部
警察署
収税署

警察部ハ縣廳構内ニアリ、各郡市二十二箇所ノ警察署ト、六箇所ノ分署トヲ置ケリ。収税署モ亦福井市ニアリ、各郡市役所所在ノ地ニ、八箇所

監獄署

ノ分署ヲ置ケリ。監獄署モ亦福井市ニアリ、遠敷郡雲濱村ニ支署ヲ置ケリ。

裁判所

裁判所ハ人民ノ訴訟ヲ受理判決スル所ナリ。福井市ニ福井地方裁判所アリ、福井市及ソノ他五箇所ニ區裁判所アリ、ソノ下ニ又十七ノ出張所アリ、皆地方裁判所ノ管轄ニ屬ス。

議會

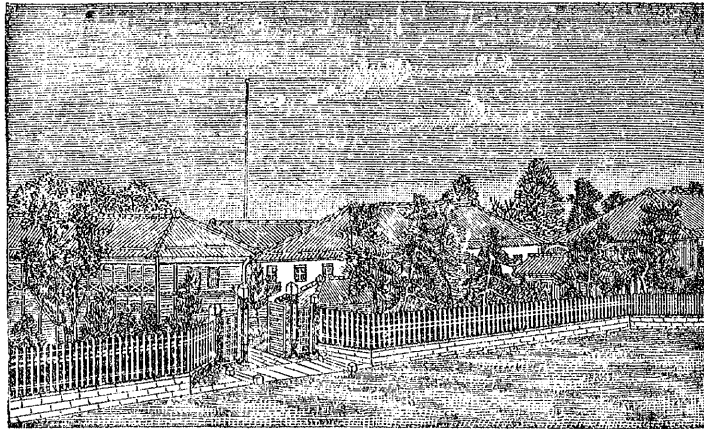
議會ハ縣會・郡市會及町村會アリ、人民ノ中ヨリ公選シタル議員ヨリ成リテ、各自ノ公共事務ヲ處理ス。

教育ノ
有様

又政府ヨリ出ス所ノ法律、及政府ノ費用ヲ議ス
ルトコロヲ衆議院ト云フ、衆議院議員選舉區劃
ハ、縣内ヲ四區ニ分チテ、四名ヲ選出スル者トス。
(教育) 教育ハ、縣立ニ尋常師範學校アリテ、小學
教員ヲ養成シ、尋常中學校、高等女學校アリテ、高
等ノ普通學ヲ教授シ、簡易農學校アリテ農學研
究生ヲ養成ス、コレ等ノ學校ハ皆福井市ニアリ、
又小濱町ニ尋常中學校ノ分校アリ。町村立ニ
ハ高等・尋常ノ小學校アリテ、學齡兒童ニ普通ノ
學科ヲ授ク、ソノ他、公私立各種ノ學校アレドモ、

越國ノ

高等ナルモノ少シ。
(沿革) 上古ハ、越前以北越
後ニ至ルマデヲ、タゞ越國
トノミ云ヒシガ、ソノ後次
第二コレヲ分チテ、終ニ今
ノ五箇國トナセルナリ、五
箇國トハ越前・加賀・能登・越
中・越後ヲイフ。ソノ後壽
永ノ頃マデハ、越前若狹ト
モ 朝廷ノ直轄ナリシガ、



福井縣尋常師範學校

武家
ノノ
中世

木曾義仲信濃ヨリ起リテ、遂ニ越前ト、若狹ノ東部ヲモ領シ又鎌倉時代ニハ北條氏ノ所領トナレリ。南北朝ノ時、越前ノ西北部ハ、新田氏コレヲ持シ、東北部ハ足利高經コレニ據リシガ、義貞戰死ノ後、越前ハ高經ノ子孫ナル斯波氏ニ屬シ、若狹ハ武田氏コレガ守護タリキ。足利氏ノ中世、朝倉敏景、斯波氏ニ代リテ越前ヲ領シ、世々相繼ギテ義景ニ至リシガ、織田信長起リテ、朝倉武田ノ諸氏ヲ亡ボシ、越前ヲ柴田勝家前田利家等ニ分轄セシメ、若狹ヲ丹羽長秀ニ與ヘヌ。豐臣氏ノ時、丹羽

大名

廢藩
置縣

長秀、越前ヲ領シ、淺野長政若狹ヲ治メタルコトアリキ。德川氏ノ初メ、松平秀康、越前ニ封ゼラレ、酒井忠勝若狹ヲ賜ハリシヨリ、世々相傳ヘテ、明治維新ニ至レリ。德川氏ノ末、諸侯ノ封土ヲ有スル者、嶺北ニハ松平氏ノ外、丸岡ニ有馬氏、武生ニ本多氏、鯖江ニ間部氏、大野ニ土井氏、勝山ニ小笠原氏アリテ、七郡ヲ分轄シ、嶺南ニハ敦賀、小濱ニ酒井氏アリテ、四郡ヲ領セリ。明治維新ノ後、諸藩封土ヲ奉還スルニアタリ、更ニ足羽、敦賀ノ二縣ヲ置キ、越前ノ内五郡ヲ足羽

自治
制度

縣ノ管轄トシ、ソノ餘ノ三郡及若狹全國ヲ敦賀縣ノ管轄トセリ、明治六年足羽縣ヲ廢シテ敦賀縣ニ合セ、同九年又敦賀縣ヲ廢シ、嶺北ノ七郡ヲ石川縣ニ、嶺南ノ四郡ヲ滋賀縣ニ合セヌ。明治十四年ニ至リ、又新ニ福井縣ヲ置キ、若狹・越前ノ二國ヲ管轄ス、即チ今ノ制度コレナリ。而シテ明治二十二年ニ至リテ、市町村制ヲ布キ、大二町村ノ區劃ヲ改正シテ、一市・九町・百六十八村トシ、以テ自治ノ制トナレリ。

小學福井縣誌 終

○郡市ノ面積及戸口表

國名郡市名	面積	戸數	人口	町名	戸數	人口
-------	----	----	----	----	----	----

○市街ノ戸口表

越前	足羽郡	九	七、七五	四、一〇七二	三國町	二、二六二	一、〇〇三五
	吉田郡	八	七、一九九	四、一一〇三	九岡町	七、六二	四、〇九〇
	坂井郡	二、三	一、九六八	一〇、五〇四	金津町	六、五九	三、一四二
	大野郡	六、八	一、五八〇	九、一二九六	大野町	一、九三四	一、〇〇六八
	今立郡	三、一	一、二二五	六、四七二	勝山町	一、五三一	七、四四七
	丹生郡	二、八	一、二六三	七、〇六八	武生町	三、六一五	一、四、二〇四
	南條郡	三、三	九、〇二一	四、二四八	緒江町	七、二八	三、六一一
	敦賀郡	一、三	六、二八九	三、二八一	敦賀町	三、一四〇	一、四六四九
	福井市	一	九、〇四二	四、一六九六	小濱町	一、八七四	九、〇七五

○地目別ノ反別

若狹	三方郡	一、四	四、三九四	二、三三四七	官有地	一、八二八・二
	遠敷郡	二、三	九、四九八	四、九九六八	民有地	二、二、七八三・九
	大飯郡	八	三、六〇五	一、九三一六	合計	二、四、六一四・一
全管		二、五九	一、一、六〇三八	六、二、三〇二〇		

○著名ノ山脈及河湖

[illegible]

○元標ヨリ各地へノ里程

元標所在地 福井市照手上町

足羽郡	市波	四里十丁	今立郡	鯖江町	三里廿四丁	安賀里	二十五里十八丁
淺水	一里卅一丁	粟田部	七里五丁	速敷郡	小濱町	二十八里六丁	
松岡村	二里十八丁	武生町	五里五丁	熊川	三十三里九丁		
吉田郡	山王	四里卅三丁	南條郡	今庄	九里十二丁	大飯郡	本郷
舟橋	一里廿一丁	大良	十里十四丁	大飯郡	高濱	三十二里十八丁	
坂井郡	金津町	五里廿八丁	大森	三里三丁	東京	市	百四十里卅四丁
吉崎	八里十五丁	蒲生	七里一丁	大坂	市	四十四里廿八丁	
三國町	五里二十丁	西田中	四里三十五丁	尾張郡	名古屋	市	五十七里三十丁
大宮	六里卅一丁	梅浦	十里九丁	美濃郡	岐阜市	三十九里三丁	
大野郡	大野町	教賀町	十五里十六丁	加賀郡	金澤市	二十二里十二丁	
勝山町	七里卅五丁	佐柿	十七里三十丁	加賀郡	大聖寺町	八里三十丁	
面谷	十九里二丁	三方	二十二里十九丁	越中郡	富山市	三十九里十四丁	
				近江郡	大津町	四十二里二丁	
				丹後郡	舞鶴町	四十一里七丁	

○敦賀港ヨリ各港へノ里程

○一里ハ十六町五十八間三尺ナリ

越前國三國港	四十二里	後志國小樽港	六百七十四里	攝津國神戸港	五百五十七里
加賀國金石港	七十八里	若狹國小濱港	三十三里	武藏國横濱港	神戶廻六百七十里
越中國伏木港	二百里	丹後國舞鶴港	四十七里	露領浦鹽斯德港	四百七十五里
越後國直江津港	百九十里	丹後國宮津港	六十一里	朝鮮國元山港	四百七十里
越後國新潟港	二百三十里	伯耆國境港	百四十三里	朝鮮國釜山浦	三百六十里
羽後國酒田港	二百七十八里	肥前國長崎港	四百四十里	朝鮮國仁川港	六百七十二里
羽後國土崎港	三百五十八里	長門國馬關港	三百三十里	支那國天津港	千三百六十里
渡島國函館港	四百五十里	備後國尾道港	四百四十五里	支那國上海港	八百二十四里

○産物表 (重要ナルモノヲ掲グ)

農産物ノ種類	産	額	價	格
米		七五、六五六八石		
麥類		三、六九一四石		
蕎麥		二、八五八二石		
菜種		三、八九四〇石		
大麻及苧麻		一三、八四五二石		

茶	八、二九八一	三、一八六七
葉煙草	一五、七五三九	
靜殼(大豆、小豆、粟、稗、黍、蜀黍、蕎麥)	九、四〇四九	
甘薯及馬鈴薯	一〇九、四七二九	
實綿	八、九七七	
藍葉	九、五九一八	
桑葉	四〇〇、一八九〇	
三桠及楮	九、一七六〇	一、一〇二一
生蠟及漆汁	八七五七	八八九八
製造品ノ種類	產	價
羽	八、一九九六一	三、五三三、四四二
二	二、六〇四五	七八、五七七四
蠶	四、四六五七	三、一〇〇七
絹織物(桑青、繭、袖、絹、綿、傘地)	六、六五三四	二一、八八三六
絹織物(紋、織、地、手、巾、紙、紗)	三、六八二	七、四八九六
木	二、三〇二八	六、八九二二
綿	一、三〇三九	六一五〇
麻	六三六三	
交織及雜織物		

紙	漆	陶	打	酒	油	刺	傘	蠟	疊	瓦	石
類	器	器	物	類	類	煙	及	燭	表	及	及
九、九一七五	一七、二四一三	二六、五四五二	三三、九九五〇	五、六七二〇	八五一五	一一、一三五六	三五、九四四三	一三、〇三九九	一二、七二四四	三三三、七〇三一	一八五、六五〇五
九、四六六一	五、三三六二	五四九二	一三、二九三四	一五、三四七二	一二、六六七一	三、七二三五	一二、九四六三	八八七五	一四、〇三三〇	五、四五一〇	六、九五八七

水産物ノ種類		價	格
乾物	九、七、一、六、七		
鹽物	九、五、五、三、七		
造苔類 (乾藻類、魚類、魚油)	五〇、六、九		
計	二〇、三、〇、九、七		
漁獲物	二九、五、五、二、九		
淡水水産	一、八、六、五、七		
計	三、一、四、一、八、六		
鹽	五、一、八、一		
穀物ノ種類			
金	六、一、一		
銀	二、一、一、四、五、〇、五		
銅	二、五、六、五、六		
銀銅	二、二、六、八		
安質母尼	六、二、一、七、三		
紅柄	五、二、三		
	三、一、〇、二		

〇著名ノ神社		社名	祭神	社格	所在地
氣比神社	宮	新田義親王	仲哀天皇	官幣大社	敦賀郡
			神功皇后	官幣大社	敦賀郡
金崎宮	宮	新田義親王	東殿日本武尊	官幣大社	敦賀郡
			西殿武内宿禰	官幣大社	敦賀郡
藤島神社	社	新田義親王	平殿武内宿禰	官幣大社	敦賀郡
			新田義親王	官幣大社	敦賀郡
若狹彦神社	社	新田義親王	若狹彦大神	國幣速數郡速	敦賀郡
			若狹姫大神	國幣速數郡速	敦賀郡
大虫神社	社	新田義親王	大虫	國幣速數郡速	敦賀郡
			大虫	國幣速數郡速	敦賀郡

須波阿須神社	大野手比賣	縣社	今立郡上池田村稻荷	常宮神社	天八百萬比賣	縣社	敦賀郡松原村常宮
舟津神社	大毘古尊	縣社	今立郡舟津村上江	總社大神	大已貴命	縣社	敦賀郡武生町
神明社	天照皇大神	縣社	今立郡神明村水落	八幡神社	多紀理比賣	縣社	敦賀郡小濱町
足羽神社	建體天皇外五神	縣社	福井市足羽上町	八幡神社	帶中日子天	縣社	敦賀郡王子村國無
岡太神社	建角身神外二神	縣社	今立郡栗田部	篠座神社	大已貴命	縣社	敦賀郡大野町
三國神社	大山咋神外一神	縣社	坂井郡三國町	神明神社	天照大神	縣社	敦賀郡寶永上町
國神社	梳子皇子	縣社	坂井郡丸岡町	春日神社	武甕槌命外三神	縣社	足羽郡一乘谷村安波賀
宇波面神社	彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊	縣社	三方郡八村	神明神社	天照太神外一神	縣社	大野郡勝山町

○著名寺院

寺院名宗名所		在地著名ノ事由	
佐佳枝廼社	松平秀康	縣社	福井市佐佳枝上町
佐伎治神社	大已貴命	縣社	大飯郡高濱村宮崎
劍神	社素佐男命	鄉社	丹生郡織田村織田
大湊神	事代主神外	鄉社	坂井郡雄島村安島
日野神	繼體天皇外	鄉社	南條郡王子保村中平吹
越知神	伊邪那美神	鄉社	丹生郡系生村大谷寺
白山神	社伊裝冊尊	鄉社	大野郡平泉寺村斗泉寺
黑龍神	社高麗神	鄉社	福井市常磐木町
小濱	社福井忠勝	鄉社	速敷郡雲濱村竹原
		天龍寺曹洞	岡本
		永安寺曹洞	志比
		大安寺臨濟	坂井郡大安寺村
		瑞源寺臨濟	足羽郡社寺村小
		西福寺淨土	敦賀郡松原村原
		白道寺淨土	坂井郡北岡町
		運正寺淨土	福井市緑町
		泰澄寺真言	足羽郡麻生津村
		瀧谷寺真言	坂井郡三國町
		引接寺天台	南條郡武生町
		中本寺	後圓融天皇ノ御建立ナリト云フ
		開基滿譽大僧正	泰澄大師誕生ノ地
		有馬直統建立	後光嚴天皇ヨリ寺號ヲ賜フトイ
		松平昌親建立	松平昌親建立
		松平光通建立	松平光通建立
		松平昌勝建立	松平昌勝建立

孝願	寺曹洞	福井市常盤松平秀康建立	誠照	寺真	今立郡鯖江誠照寺派本
臥龍	院曹洞	三方郡八村古院	專照	寺真	福井市豐町山三門徒派本
發心	寺曹洞	速敷郡今富武田元光建立	平等會	寺日蓮	丹生郡吉川古寺
本願寺派別院真	中町	福井市尾上開基蓮如上	稱念	寺時	坂井郡高松新田義貞墳墓アリ
本願寺派別院真	坂井郡吉崎	開基蓮如上	羽賀	寺真言	速敷郡國富開基行基上人
本向	寺真	足羽郡下宇胤信	妙樂	寺真言	速敷郡今富開基弘法大師
超勝	寺真	吉田郡東藤古寺	神宮	寺天台	速敷郡遠敷開基滑元和尚
本瑞	寺真	福井市乾中	中山	寺真言	大飯郡青郷開基泰澄大師
大谷派別院真	坂井郡吉崎	開基蓮如上	高成	寺臨濟	速敷郡今富足利尊氏建立
毫攝	寺真	今立郡味真出雲路派本	龍澤	寺曹洞	三方郡西郷開基宗和滿天
證誠	寺真	今立郡新横山元派本山	常高	寺臨濟	速敷郡小濱京極高次再建
妙泰	寺日蓮	南條郡南日開基日像上人	空印	寺曹洞	速敷郡小濱酒井忠勝再建

○署名ノ城址

名	稱	所	在	地	城主名
北	莊	福井市	福井		粟
安	居	足羽郡	東安居	金屋	五部
南	守	足羽郡	社村	南江守	一今立郡
藤	島	吉田郡	東藤島	村藤島	味真野村
波	密	吉田郡	西藤島	村原目	山南條郡
勝	虎	吉田郡	西藤島	村舟橋	神山村
小	丸	吉田郡	西藤島	村黒丸	妙法寺
一	乘	足羽郡	一乘谷	村城戸	南條郡
河	合	吉田郡	森田	村石盛	賀全上
夷	山	大野郡	大野町		崎全上
鶯	嶽	大野郡	北郷村	伊知地	山全上
鷹	粟	坂井郡	鷹粟村	高粟	吉三方郡

大黒丸坂井郡鷯村黒丸	朝倉廣景
屋丹生郡城崎村厨	新田義貞
一今立郡味真野村五部	佐々成政
山南條郡山南村阿久和	爪生保
妙法寺南條郡神山村妙法	爪生重照
崎敦賀郡敦賀町	氣比氏治
金々崎全上	朝倉教景等
金々崎全上	大谷吉隆
敦賀全上	爪生保
手筒山全上	粟屋勝久
吉三方郡耳村佐柿	武田元光等
山速敷郡今富村伏原	松宮玄蕃助
山速敷郡爪生村爪生	逸見駿河守
濱大飯郡高濱村高濱	

明治廿八年八月廿四日印刷
明治廿八年八月廿七日發行
明治廿九年三月廿日訂正再版印刷
明治廿九年三月廿八日發行

定價金拾五錢

著作 高城與五郎

福井市佐佳枝上町三十五番地 寄留

發行者 品川太右衛門

福井市佐佳枝中町五十二番地

發行者 松原榮

福井市佐佳枝中町三番地

印刷者 岡崎左喜次

福井市照手上町五番地



